栃木県立足利南高等学校
平成 23 年度 総合学科通信 第２号

№31
（2011/12/22発行）

一日体験学習

教頭　茅島　有子

平成 23 年８月２日、中学生・保護者に対して、本校の教育課程・内容・進路状況・特色等を説明し、体験的に本校への理解を深め、将来の進路選択に資することを目的とした、一日体験学習を開催しました。

当日は足利・佐野を中心に、中学生 479 名、保護者 177 名、教員３名の計 659 名の参加がありました。

今年は校舎耐震工事の影響により、体験授業が実施できませんでしたが、例年行われている全体会で、総合学科紹介ビデオ、教育課程や進路状況説明、ホークスベリー高校派遣生徒発表やライフプラン発表、卒業生による課題研究発表等盛りだくさんの内容を取り入れ、本校の特色を理解して頂きました。

アンケートを実施したところ、学校・学科の教育上の特色や内容が理解できたは 99.3%、一日体験が大変参考になったは 70.0%という評価をいただきました。また、「自分で時間割を組むことができるのは魅力的だと思う」、「学校行事がたくさんあり楽しそうだ」、「勉強や部活動に力を入れている学校だと思った」、「先輩方が明るく優しくて、とても安心した」等の感想もありました。中学生にとって、全体説明会や部活動見学等を通し、進路選択を真剣に考えるための、充実した一日になったのではないでしょうか。

インドネシア学校交流会

２年５組 山本 レイナ

私達生徒会役員は、九月に本校で東京にあるインドネシア学校と交流会を行いました。最高の状態でインドネシア学校の生徒の皆さんを迎えられるように、前日まで飾り付けなどの準備をしてきました。

当日になり、全員が楽しみのワクワクと緊張のドキドキで胸一杯だったのではないかと思います。篆刻とペーパークラフトの二つのグループに分かれて、各々で行動し交流をしてきました。そして一緒に昼食を食べて午後からは文化部発表会に参加し、空手と伝統的な踊りを見せていただきました。フォーク部のバンド演奏の時はすごい盛り上がりでした。

フォーク部の演奏が終わった後にインドネシア学校の生徒さん達による特別ライブも行われ、もっとすごい盛り上がりが見られました。みんなが楽しめた、そんな気がした瞬間でした。

お別れの時間が近づいてくる頃には仲良く話をしている場面も見られました。交流としてでは無く、それ以上の友達になれたのではないかと思います。友達になるのに、文化の違いは関係ないのかもしれないと思えた、そんな一日でした。

足利市内高校芸術鑑賞

芸術科　藤谷　知仁

１１月9日（水）に行われた今年の芸術鑑賞会は、劇団シアター青芸による「THE　WINDS　OF　GOD」を鑑賞しました。この作品は、広島・長崎への原爆投下の日はおろか、終戦の日時さえよく覚えていない若手漫才コンビが、交通事故を境に昭和二十年八月の“特攻隊前線基地”へとタイムスリップしていく物語です。大きな流れの中で「死」に向かっていく特攻隊員の若者と「過去の戦争」さえよく認識していない漫才コンビの若者のちぐはぐさからはじまり、いつしか今を生きる若者の「生」と、「死」を義務づけられた若者の「生」とが激しくぶつかり合う。この作品は、「生」ということに対してのアイデンティティーを自らの意志と力で決定することができず、もがき、苦しんだ若者と、自らの「生」の意味を自由に選び取ることの出来る現代の若者とが織りなす舞台になっていて、「生命」のいとおしさ、尊さを、また「夢」をいだき、その「夢」を追い求めていくことの素晴らしさ大切さを訴えかけていた作品でした。

修学旅行（沖縄）

『宮古島への修学旅行』
２学年主任　松野　哲也

平成２３年度の修学旅行は、９月３０日から１０月３日までの３泊４日で行われました。本校の沖縄への修学旅行は２００１年から始まり１１回目を迎えましたが、今年はこれまでの本島を離れ、栃木県の高等学校で初めての宮古島へ３泊４日の日程で行ってまいりました。台風が近づき実施が危ぶまれましたが、何とか予定の行程をクリアできました。

第１日は、沖縄本島の南部戦跡を巡るコースでした。まず、ひめゆりの塔を、そして平和の礎や平和祈念資料館を見学しました。そこで玉木利枝子さんの戦争体験講話を聴きました。実際に体験した方から聞くなまなましい現実に、戦争の悲惨さをあらためて考えさせられる講話でした。

２日目は、１・２組と３・４・５組に分かれ別便で宮古島に向かいました。宮古島で最も美しいとされる砂山ビーチ、池間島にかかる池間大橋、島尻のマングローブ林、２００７年に国指定の名勝に選ばれた東平安名崎などをバスで巡りながら観光し、関東とは違う気候風土に触れました。

３日目は、各自で選択した各種のメニューを体験しました。波の状態が悪く、バナナボートは中止になってしまいましたが、時折晴れ間ものぞく中、マリンスポーツではシーカヤック、シュノーケリング、体験ダイビングなどを体験できました。また工芸村ではサーターアンダギー作りや藍染めなどを体験しました。ちなみに本校生徒の体験の様子は宮古島市体験工芸村ＨＰのスタッフブログで紹介されました。

４日目は、前浜、栗間島等を見学しました。その時に栗間大橋を渡っている最中にウミガメが泳いでいるのが見えバスの中は歓声につつまれました。台風が近づき天候が心配されましたが、予定した行程を終え無事に帰路につくことができました。

今回の修学旅行を通して、ほとんどの生徒は時間を守り、ルールを守り楽しくきちんと過ごせたと思います。何もかも初めての体験の中、新しいものに触れる楽しさや嬉しさを感じ、未知のものへの憧れやチャレンジすることの有意義さを身をもって感じてくれたこととおもいます。思い出に残る旅行になったと信じて生徒たちに感謝したいと思います。

修学旅行で沖縄に行って

『宮古島島内観光』
2年5組　飯原　志野

宮古島へ行くのは初めてだったので“どんな島なのか”と私の気持ちは期待と観光できる喜びで満ち溢れていました。

修学旅行の２日目に砂山ビーチ、池間島、池間大橋、島尻マングローブ林、東平安名崎を観光し、４日目に来間島、来間大橋、前浜を観光しました。前浜では天候が悪くバスの車窓から見ることになってしまい、実際に行くことができず残念でした。

最初に訪れた砂山ビーチは一番思い出に残りました。エメラルドグリーンの美しい海に雲一つない青い空、まるで絵に描いたような美しいビーチでした。裸足で歩き回った砂浜の砂は細かくて、本当に綺麗でした。砂山ビーチで撮った友達との写真は自慢の宝物です。次に訪れた池間島・池間大橋は、池間大橋の1，６キロもの長さと橋の

下の美しい海が融合し、本当に美しくて感動しました。島尻マングローブ林では、「マングローブとは他の植物と違って根っこを１日のうちの一定時間を空気と海水にさらされている特別な植物」だと言うことが分かり、理解を深める事が出来ました。東平安名崎は、日本の絶景百の中の１つだということで、貴重な体験だったのではないかと思います。しかし、海風が強く吹いていて、ゆっくり景色を眺められず残念でした。４日目に訪れた来間島・来間大橋はバスの車窓から観ました。来間島は１周７分で回れるような小さな島でした。来間大橋は池間大橋と同様、橋の下には美しい海が広がっていました。偶然にも海ガメを見ることができました。とても可愛らしかったです。

宮古島は“自然豊かで美しい場所がたくさんある日本の誇るべき島なのではないか”と島内を観光したことにより改めて感じられました。

修学旅行で沖縄に行って

『修学旅行』
２年2組　半田　詩織

沖縄で過ごした４日間は、とても充実したものでした。

私は１日目、バスで酔ってしまいました。そのあと飛行機に乗ることになっていたので、すごく不安でした。しかし、はじめての飛行機は、思っていたよりずっと楽しかったです。

那覇に着いて地上に立った時、青い空と少し蒸した空気に、普段の悩みが一瞬で消えたような気がしました。栃木では感じられないまるで非日常な空間に、すごくわくわくしました。しかし一日目は学習がメイン、「学習」というだけで少し気怠い感じがしてしまいましたが、戦争の話には興味があったので少なからず楽しみにもしていました。

ひめゆりの塔では、戦争体験者の貴重な文献、戦時中使用されていたものや、そのときの写真など、本当に興味深いものばかりでした。特に写真はこれが本当にあった出来事なのかと目を疑うようなものばかりで、戦争の恐ろしさを改めて知ることができたような気がしました。

平和の礎では思っていた以上の数と敷地に驚きました。形も変わっていて、石も綺麗で、すごく芸術的でした。兵士より、沖縄に住む住人の方がたくさん被害にあったと言うのが目に見えて分かって、戦争のむごさも感じる事が出来ました。那覇でのこれらの体験は、私に様々な知識を与え、普段あまり感じることのできない感情を芽生えさせてくれました。とても貴重な体験ができたことを非常に嬉しく思っています。

このように、１日目から旅行は充実したものになっていたと思います。旅行で良い思い出がたくさんできたので、これからは進路、将来について真面目に考えていきたいと思います。旅行から無事帰ってくることができ、そのために動いてくださった全ての人に感謝しています。

ハーフマラソン大会

保健体育科　安塚　正史

１１月１１日（金）に予定されていた第１２回足利南高等学校ハーフマラソン大会は、雨天のため中止となってしまいました。

生徒達から、「走りたかった。」「別の日に出来ないのですか？」「今年が最後なのに・・」などの声が聴かれ、実施できなかったことが非常に残念に思えました。特に、今年の３年生は、震災の影響でスポーツデイが中止になっていたため、ハーフマラソン大会は是非走らせてあげたかったのですが残念ながらそれも叶いませんでした。

来年は、ぜひ快晴の下で第１３回大会が実施できることを切に願いたいと思います。

最後になりますが、ＰＴＡ会長をはじめ保護者の方々には、事前の準備や豚汁準備のお手伝い等をしていただき本当にありがとうございました。心からお礼申し上げます。

野球部

野球部顧問　堀越　安則

今年度で第2回目となる栃木県高等学校１年生野球の中央大会が１１月１２～１３日の両日、県営球場他で開催されました。この大会は県内６３校の１年生を対象にした大会で、８校ごとの各ブロック大会から勝ち上がった代表6チームと、先に行われた秋季高校野球大会（１・２年生の新チーム）の優勝校である作新学院、準優勝校の文星芸大附属高校の２校を加えた計８校で行われました。

足南は予選リーグで足利高校、栃木高校にそれぞれ勝利し、代表決定戦である青藍泰斗高校戦では序盤から相手を圧倒し5対0とリード、終盤に3点を返されたものの危なげなく、そのまま試合を押し切り５対３でブロック優勝を果たし、中央大会の切符を手にしました。

中央大会の１回戦では推薦で選ばれた秋の優勝校となる作新学院と対戦し、接戦によるロースコアーの投手戦を展開。中盤の５回裏満塁から値千金の決勝スクイズを決め、昨年度第１回大会の優勝校でもある作新学院を撃破しました。

初のベスト４進出を決めて臨んだ準決勝戦、対宇都宮北高校戦では息詰まる投手戦を展開。７回（１年生大会は７イニング制）を終えて、0対0の延長戦に突入しましたが惜しくも8回に5点を奪われ、0対5で敗退しました。結果は中央大会でのベスト４に終わりましたが、大会に臨む前には僅か９名のエントリーからの出発であった大会だけに、部員達もそれなりの充実感を感じているようでした。今後はこの結果に満足することなく、より一層の努力精進を期待したいものです。

バスケ部

2年4組 飯村 彩香

私たち女子バスケットボール部は　、２年生７人・１年生８人 ・顧問の大河原先生・松野先生の 17 人で活動しています。２年、１年、学年、関係なく仲良しで毎日笑顔が絶えません。みんなで楽しむ時は楽しんで、練習の時は切り替えて真剣に取り組んでいます。今年のチームは、判断ができ 、スピードもあるバスケットでインターハイ出場を目指しています。

練習では走るメニューがほとんどで、頭も使います。この練習を今頑張れば必ず自分達に良い結果として返ってくると信じて一人一人が声を出し、チーム全員で練習を乗り越えています。そして今は、シュート一本一本を大切に打つ事を心がけています。

顧問の大河原先生は、練習中はとても厳しいことも言いますが、とことん私達一人一人と向き合ってくれます。土・日の練習試合も今までとは違った強いチームと組んでくれたり、私達が目標達成するために全力で指導してくださいます。

１０月末に行われたウインターカップ予選では、ベスト４を取ることができました。しかし、私達が目指しているのはインターハイ出場！！ベスト４は通過点であり、ゴールではないのでこれからも目標に向かって日々練習に励んでいきます。

発行：栃木県立足利南高等学校　教務部広報係
TEL：0284－72－3119（事務室）　FAX：0284－73－2772
TEL：0284－72－3118（職員室）